

埼玉大学電気・電子工学科 同窓会会報

# さい久流

Vol. 7



今も北浦和公園に残る埼玉大学の門

平成 7 年 7 月 発行

埼玉大学電気・電子工学科同窓会

〒338 浦和市下大久保 255

TEL. 048-852-2111(内線 4490)

FAX. 048-858-3473

(印刷 雄文社)

## さい久流 Vol. 7

### 発行にあたって

会長 村田 昌市 (電気73年度)

会員の皆様お元気で御活躍の事とお喜び申しあげます。ここに同窓会会報“さい久流Vol. 7”を送付できます事大変喜ばしく思います。

本年は年初より暗い話が多い年であります。景気回復がままならない状態で新年を迎え、愛犬家殺人事件に始まり、阪神大震災(不幸にして会員の皆様の中で被害に会われた方は復興に向けて頑張ってください)、地下鉄サリン事件、超円高、自動車及び自動車部品の日米貿易交渉の決裂等とすでに年間10大ニュースが発生してしまった様に思える程です。

さて、私達埼玉大学電気・電子同窓会のこの数年を振り返って見ると、同窓会25周年記念式典を池袋にて盛大に開催する事を含め ①同窓会会費の定期的徴収 ②同窓会会報“さい久流”を毎年発行 ③同窓会名簿の発行(この名簿が工学部全体の名簿発行に役立ちました) ④定期総会・懇親会の開催 ⑤学生との交流会開催(昨年10月について開催できました)等、役員を始め会員皆様のご協力により着実に活動が行われ概ね形が整ってきました。

一方いくつかの課題も出て参りました。①会費徴収率の低下 ②定期総会・懇親会参加者の減少 ③一部役員への負荷集中 等です。

まず会費徴収ですが初回の振込者が479名('90~'92年度分)に対し、2回目は約350名('93~'95年度分)と会員数が増加しているにもかかわらず総額で減少している状態です。その為本年度の運営費が充分でなくなる恐れがあります。原因は会運営が充分でない事が第一要因と考えていますが、例えばいままではなるべく多くの会員の皆様に活動を知っていただく事をめざし会費をはらっていない方にも会報を送付するサービスを続けて参りましたが、これらは悪平等とも考えられサービスの公平化や費用削減を考えなければと思っています。次に定期総会参加者の減少については総会自体がやや形式的になりすぎてきた事、何年かに一度であれば参加するのだがという会員がいる…等の理由が考えられ、これも開催方法を見直す時期になったようです。3番目に会運営の実作業は幹事会に始まり総会運営等まで大学にいらっしゃる

会員の方に負荷が多くなっているのが現状です。費用を少なくおさえながらの運営ですがやはり改善の必要が生じてまいりました。

この様に種々改善を必要とする状況にありますが同窓会活動は継続していくというのが多くの方の意見であろうと思います。今後ともどんな小さな事でも結構ですから皆様の知恵と支援をよろしくお願いします。

### ■学内トピックス■

今年の4月には、電気電子工学科が電気電子システム工学科に改組されました。これは光エレクトロニクスおよびデバイスの学問・研究分野を拡充するための改組で、この結果研究室が1つ増え学生定員も従来の80名から90名に増加しました。同時に情報工学科も情報システム工学科に改組され、工学部の他学科同様大講座制になりました。

大学院理工学研究科前期課程(修士課程)には環境制御工学専攻が新設されました。これは学部直結する学科を持たない研究指向の強い、修士育成のための独立専攻で、旧帝大以外の大学での設置は初めてだと言われています。新設時にはとりあえず機械、電気、応化および建設の4学科により各1研究室ずつ面倒を見ることになり、当学科からは独立専攻設立に関わってこられた大嶋先生が独立専攻の電気系研究室である人間協調システム研究室に移籍なされました。

新任の先生として、電気電子システム工学科に東工大から伊藤先生が、環境工学専攻の電気系研究室に舞鶴高専から山根先生がそれぞれ助教授として赴任されました。両先生ともに30代前半とお若い先生であり今後の御活躍が期待されます。

学科内では、電子回路研究室の今田先生が助教授に昇格されました。また総合情報処理センターの助教授でした谷治先生が、当学科の電子計測研究室に戻ってこられ、代わりに電気機器研究室の筆者が総合情報処理センターの専任講師として移籍しました。

また、長年同窓会の仕事に携わってこられた荒木先生が東工大に転任なされました。東工大では埼大出身の教授としての御活躍が期待されます。

金子 裕良 (電気87年度、電気修89年度)

## 連載 会員だより

### ▶▶▶ その6

#### 第2土曜日の集まり

3期 前島 暁（電気68年度）

1969年から1995年5月13日（土）の毎月第二土曜日夕方6時過ぎに池袋の喫茶店に参集する『おじさんたち』がいる。会則、メンバー資格などは無く、決まっていることは『毎月第二土曜日夕方集まる』という事だけである。

1969年3月埼大電気科天野研究室第一回卒業の有志が中心となり社会に出てからも月に一度ぐらい、あそこに行けば同期の誰かに会える場所が有っても良いのではないかと定期的に集まり出したのがスタートでした。

常連は中津山君（アスキー）、鈴木君（東芝）、稲葉君（新日本無線）、小林君（埼玉大）、前島（オリジン）です。26年間の毎月第二土曜日と言うと単純計算でも300回近くなります。当事者でも呆れるほど、よくもここまで続いたものだと驚いている状況ですから他人様から見たら物好き達がと気狂い扱いされるのが積の山でしょう。『さい久流』編集委員長の仲江川君から一寸書いて欲しいと依頼が有りましたので簡単に26年間どんな風が続いてきたのか振り返って見る事にしました。

〔スタート時期〕（1969～1972）（独身時代）

当時第一、三土曜日の週休二日制が進行途中で第二土曜日の夕方は比較的参集しやすいだろうとの理由で第二土曜日に決まり、場所は池袋に土地感の有った中津山君、小林君の提案で『マルグリット』と言う喫茶店にしました。土曜日6～7時過ぎに全員が集まると、隣のパチンコ屋で当日の運試しを行い、その後焼き鳥屋で一杯飲みながら仕事の事、彼女の事（？）など取り止めの無いことを喋り時間を過ごし、その後ボーリング、TVゲーム等で大はしゃぎ、一番遠距離へ帰る私の最終電車の時刻に合わせてお開きと言うのが定例パターン。時に応じて磯釣り（真似ごと程度、写真参照）、スキー（上越が多かった）等を企画し、鈴木君、稲葉君の会社の友人の特別参加を加えて盛大に遠征する事もありました。

〔定着時期〕（1973～1980）

一番早く嫁をもらおうと言い出したのは中津山



磯釣りの準備に向う第2土曜日の面々

左より小林君、鈴木君、稲葉君

君だが、多分婚約の直後の頃だと思うが、第二土曜日にフィアンセを連れてきて紹介してくれた。メンバーは自称気立ては良いのだが少々口の悪い質の者揃い、初対面の彼女に厳しい質問を浴びせたものだから、彼女はこんな友人と付き合うのかとその時はびっくりしたのではないかと思います。（その後二度と奥様連の参加者はいない……邪魔な事も有るのだが）

その後は例に習って然かるべき時期になると第二土曜日の集まりに彼女を連れてきて紹介するのが当然の手續きとなり、その場で月に一度の集まりは最優先で都合を調整する事と、無理やり同意を取り付けてしまった事も、集まりが永年続いている理由なのかもしれない。仕事、家庭共に変化が激しく多忙な時代にも拘らず毎月、毎月第二土曜日になると喫茶店に集まって、酒を飲んで、遊んで別世界の時空体験を過ごすことが繰り返された。最初の内は最終電車での帰宅が当たり前だったものが次第に早く帰宅するようになり女房には皆さん元気がなくなりましたねと言われる始末で、本当に相当な時が過ぎたのだなあ痛感させられています。

〔習慣化の時期〕（1981～1995）

時の流れと共に焼き鳥屋をピザ屋に変え、その次にはうどん屋に、そして再び焼き鳥屋と集まって駄弁っている場所は3～4年毎に変わったが、第二土曜日の集まりは完全に生活の節目節目に刻みこまれ、年々強まって来たストレスの解放には絶好の場を提供してもらった。

月に一度26年昔にタイムスリップして過ごすことが何と心地好い事かとすっかり楽しんでいるのが実態で、今後も永遠に続くものと確信している。

そして出来る事なら一人でもいいから新たな参加者が加わってこの楽しみを分かち合える仲間が増える事を期待している。この駄文を御覧になられた同期の友よ、第二土曜日6時に池袋東口サンシャイン通りの喫茶店『スパジオ3985-7196』に是非お出掛け下さい。

## 連載 会員だより

### ▶▶▶ その7

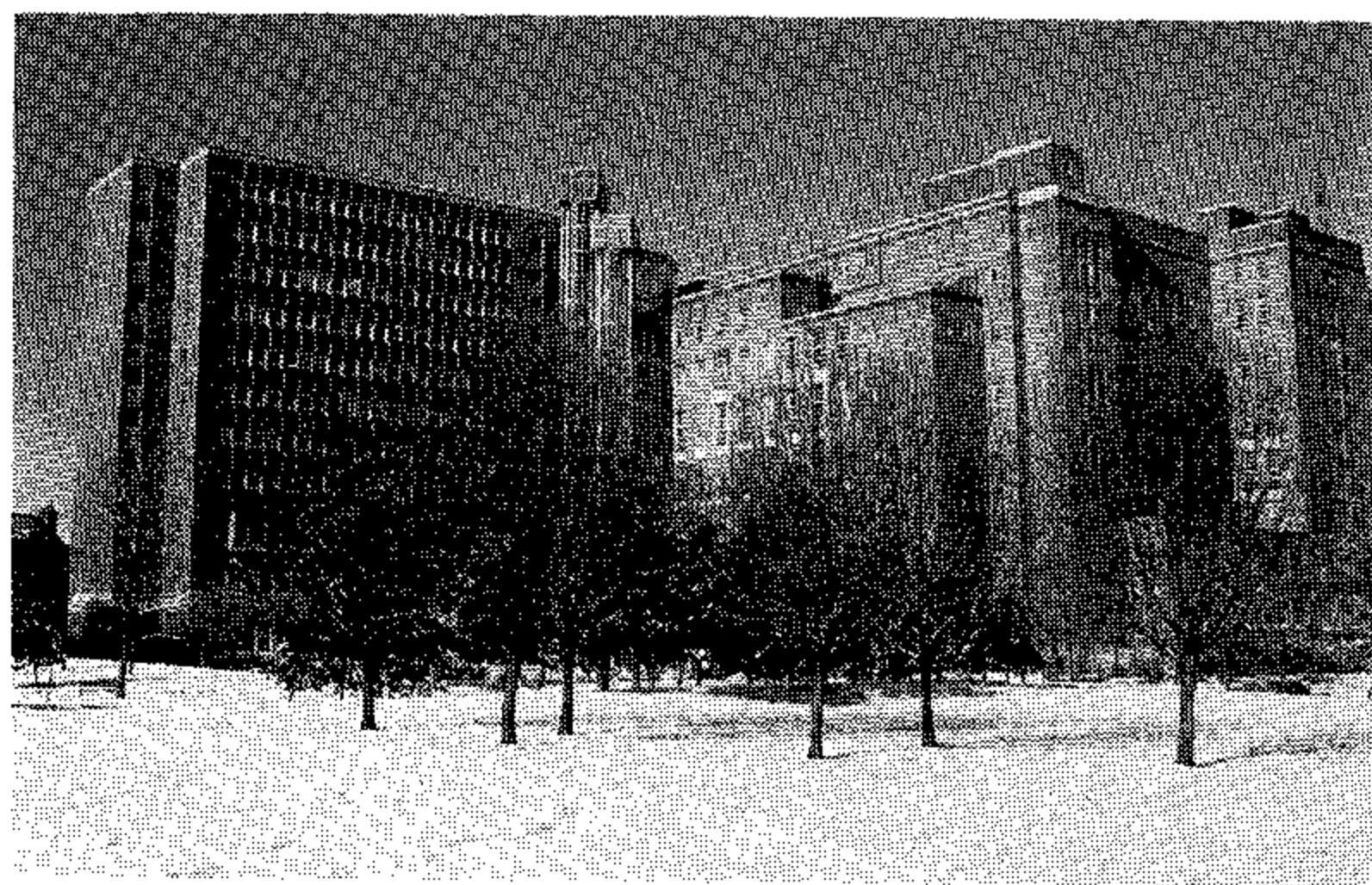
## 先生方の近況

英国Aston大学に滞在して

小林 信一（電気68年度）

文部省の在外研究員として、平成6年6月から平成7年3月までの10ヶ月、英国第二の都市、BirminghamにあるAston Univ. 大学に滞在してきました。BirminghamはLondonのEuston駅から、鉄道で1時間50分（日曜日は保守工事のため3時間かかる！）の英国中央部にある大都会です。産業革命発祥の地の一つであり、James Wattが蒸気機関を発明（正確には改良）したところでもあります。町の歴史をみると、現在、日本がその恩恵をこうむっている各種の工業製品のうち、かなりのものがBirminghamで発明、工業化されたことがわかります。

Birminghamは観光地でないため、日本で紹介されることは極めて希です。私も殆ど地理的な予備知識なしに行く有様でした。到着当日は、滞在予定の大学の教授がBirmingham Newstreet駅まで車で迎えに来てくれました。大学は、駅から車で5分程のところであり、町中にある大学という感じです。私が世話になったProf. R. V. Lathamは、電界電子放射現象の研究で世界的な権威であり、1980年のオランダの国際会議以来、旧知の間柄で、大変歓迎してくれました。



Aston大学のMain Building

大学の授業は、3学期制で1学期10時間、1授業時間（1コマ）は60分です。教授の講義を聴講させてもらいましたが、授業中の学生の聴

講態度は日本と同様でした（居眠りがいると言う点で）。また、私語は殆どありませんでした。卒業式（正式には学位授与式）も見学させてもらいました。印象的だったのは、講堂の座席の前の方に親が着席し、卒業生は後の方に着席していることでした。それまでの親の支援に感謝する意味が込められているようです。学生の就職は極めて困難で、卒業時点で職に就ける者は殆どなく、卒業後職を探します。Aston大学は、英国でトップクラスの就職率ですが、それでも一年経って就職できる学生の割合は70%弱です。新規卒業生の採用数を抑制してるとは言え、数百人もの学生を毎年採用する会社が多数ある日本とは比べものになりません。



Warickの町並み

英国は、どんな小さな町へ行っても必ずTourist Informationがあり、豊富な観光資料が用意されています。国中、日本の霧ヶ峰を緩やかにしたような丘が広がり、それが一年中枯れることのない芝生で被われています。田舎に行けば、一面緑の絨毯で、美しいの一語に尽きます。そのような中を片側3車線、制限速度70 miles/hのMotor Wayが走り、無料で利用することができます。英国特有のRoundaboutのお蔭で信号が殆どなく、平均時速60 miles（約100km/h）で運転することができます。その他下水道の完備等、システムは古くなっていますが、社会基盤の充実ぶりは日本とは比較になりません（税金は高いですが）。

以上とりとめもなく書き連ねてきましたが、今回の在外研究は、私にとって大変印象深く、一生の思い出に残るものです。その機会を下さり、また様々な御尽力をいただいた電気電子システム工学科の教職員の方々をはじめとした皆様に深く感謝申し上げます。

## 連載 会員だより

### ▶▶▶ その8

#### 恩師からのお便り

山本 充義 (元、電気機器・教授)

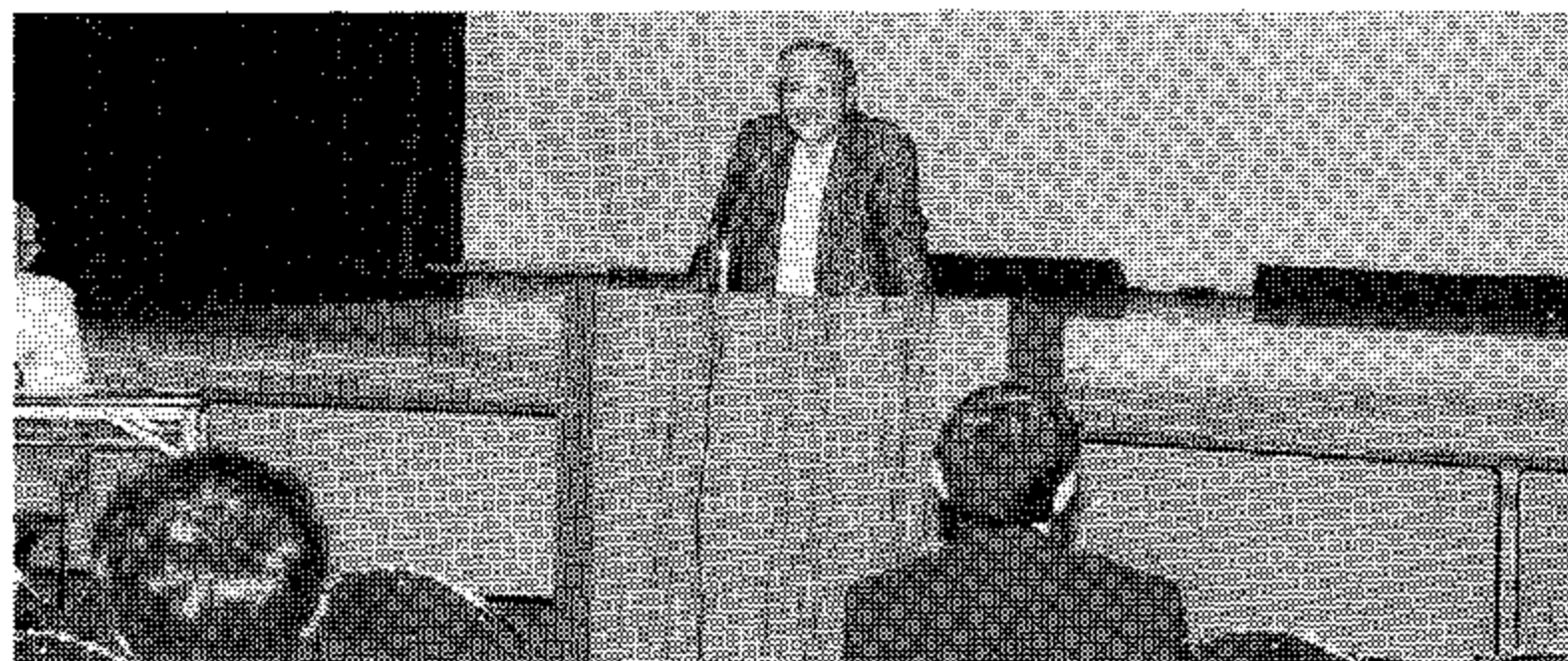
春の頃でしたか、工学部卒業生名簿が送られて来ました。工学部創立30周年記念に作成したとのこと。埼大を退いて4年目の私には全てが懐かしく拝見しました。電気系の森末道忠先生が工学部長に御就任になったこと、卒業生が広く各分野で発展していること、博士後期課程が順調に発展していることなどを知り得ました。中でも、私の在職中に学生だった皆様のことが思い出されます。

電子棟一階の奥の長い教室で、いつも後ろに座っていた連中(失礼)を前に座らせるため、後ろの連中の数人は留年組になるよと嚇したりしたのですが、卒業後10年も経てば、今は各分野で働き盛り、責任ある仕事をしているのかと思うと教師の立場は複雑な気がします。こんな思いをしていたとき、同窓会があるから来ないかとの招きがあり、7月16日久し振りで埼大に参りました。

北浦和の駅から埼大への道は、日本一長いけやきの道だそうですが、緑に映え、夏の暑さを緩めて下さるばかりでなく、学びの園への道として趣きを感じさせます。

正門より入ると昔と様化し、整然とした風景に驚かされました。左側の教養の建屋の前には立看板が雑然と所狭しと並び、大学内の存在を誇示していたものですが、今は池と小川のある小庭園に変わり、学生達の憩いの場所になっていました。電気系棟の隣には7階建の大学院が埼大の象徴として相応しく建てられていました。大学には偉容と落ち着きが必要です。よい環境ができたのを喜んでおります。

私の在職した頃の学生数は工学部で各年320名でした。今は460人、電気系も電気電子制御、電気通信システム、機能材料の3学科に拡



昨年度総会での山本先生

大、修士学生も毎年30人余が進学、10人に近い博士課程が既に世に出ているとのこと、また若い先生達は、次々に海外留学で国際性を広めているとのことでした。埼大が益々充実発展して行く様子を知り、かつて、ここに参加したものとして、まことに同慶のことと存じます。

同窓会は毎年開催されます。本年参加されない向は来年はぜひ参加され、母校の発展の様子を知り、皆様同志の交流の場として戴けないかと思っております。

終りに同窓会運営に御尽力を賜っている役員の皆様に敬意を表します。(H. 6. 7. 5 記す)

#### ■ 研究室案内

ここでは毎回、母校の研究室の活動状況を順次紹介していますが、今回は森末先生と1993年に埼玉大学に赴任された前山先生の研究室を紹介します。

森末先生は昨年より工学部学部長として研究・教育だけでなく、学部を始め大学全体の運営や種々の計画に参画しており、非常に多忙な日々を送っています。森末研では、早くから超伝導素子によるカオスや非線形振動の解明を中心に、時代をリードする研究を行ってきました。最近では、実際に超伝導デジタルデバイスの設計や製作を行っています。その他、ファジィプロセッサの開発やその制御、また、ニューラルネットワークによるCT画像再現や高性能計算機回路の開発など、常に情報処理、情報制御の分野で革新的な研究を推進しています。学生の指導においても、適切な指導力を発揮し、先生の研究室では昨年も2名の学生が博士号を授与されています。

前山先生は核融合装置における電磁界の理論的解明や提案を行い、核融合プラズマの制御を行うための解析研究を進めています。現在は、プラズマ工学だけでなく、電力系統解析の高速化を目指した並列処理の研究、エネルギー貯蔵機能を有する半導体化移相器を用いた電力潮流制御、サイリスタ素子を用いたマルクス回路の設計など、電力系統及びパワーエレクトロニクスの分野にも積極的にチャレンジしており、若い新進気鋭の先生の意気込みが感じられます。また、先生は温和で、責任感が強いことから、現在でも種々の委員等を担当していますが、これからは研究教育だけでなく電気電子システム工学科の運営についてもその中核となって御活躍されるものと期待されます。

谷治 環 (電子77年度)

## 『学生交流会を開催して』

親睦委員会 電気4期 磯野 元宏  
(電気69年度)

平成6年10月15日午後3時より、OBと現役生(院生/学部生)との第1回の交流会が、埼玉大学内で開催されました。

OBは電気1期から25期、電子2期から17期の19名が参加され、学生側からは学部の3年生、4年生および大学院生が23名出席しました。

交流会の席上、OBの伊佐治さん(日本IBM、電子7期)、会田さん(宇宙開発事業団、電気22期)、横田さん(富士写真光機、電気12期)から、会社におけるご自身の体験やエピソード、これから社会人となる現役生へのアドバイス等、内容の豊富な、楽しいスピーチをいただきました。学生側から質問も出るなど予定の時間を越えるものとなり、席を学生会館に移しての懇親会は簡単な立食形式で行い、OBと現役生との懇談の輪がいくつもでき、実りある語らいの場となりました。

当日出席いただいたOBの方々に、あらためてお礼を申し上げますとともに、多くのOBの皆さんに、次の機会には是非参加いただきますようお願いし、交流会の開催の報告といたします。

## 平成6年度 事業報告

- 平成6年5月 第1回役員会  
第1回さい久流Vol.6  
編集委員会
- 6月 第2回役員会  
第2回さい久流Vol.6  
編集委員会  
さい久流Vol.6(総会案内)  
発送業務
- 7月 平成6年度総会及び懇親会  
(於:埼玉大学)
- 8月 第3回役員会
- 10月 学生との交流会  
(於:埼玉大学)
- 平成7年2月 新会員名簿整理
- 3月 卒業生への同窓会名簿販売

## 平成6年度 総会報告

平成6年度総会を平成6年7月16日(土)、埼玉大学会館にて実施しました。冒頭、村田会長より「定期的に総会を開くようになってから数年経ち、平成3年、池袋メトロポリタンでの開催の際には100名を越える参加がありましたが、本日は参加会員数は20余名と少人数となり、今後総会のあり方について検討していきたい。」との挨拶がありました。

来賓として参加頂いた北川先生より「25年間電磁気学を教えながら雷の研究に携わりました。その生徒は社会の中堅として活動し、社会のエレクトロニクスの躍進を担っていることを誇りに思っています。」とお言葉を頂きました。また、山本先生より「7年前に大学を退官し、現在横浜に住んでいます。通勤の傍ら徒然草を読んだが、学校の大切さが書かれています。勉強は独学では成就し難く、学校でもまれて上達する。また、同窓会は会員相互の情報連絡に止まらず至る所に価値を見いだせる会にしてほしい。例えば、パソコンの使い方、携帯電話等に関する講演会を開く等の企画を考えてはどうか。」等、同窓会の運営に関する具体的ご指導も頂きました。

また、同窓会役員については村田会長をはじめとしほぼ昨年度と同様なメンバーが続投することになりましたが、監査役の荒木慶和さんが海外赴任された関係で松井章典(気20)さんにバトンタッチされ、また平成5年より設置されている親睦委員会の更なる充実のため委員として荒木純道(気5)さん、金子裕良(気22)さんが新たに参加されました。

総会終了後は来賓の先生方、現役の学生さんを含め例年どおりきやら亭にて賑やかに懇親会を実施しました。

副会長 堀 長一郎

(電気77年度、電気修79年度)

